

2学期の生徒指導に関するチェックシート

西部教育事務所

西部教育事務所では、「自他を尊重する心を育む積極的な生徒指導の充実」をお願いしています。2学期の自校における生徒指導について、以下の観点から振り返り、成果と課題を明らかにしておきましょう。1学期も同様のチェックシートを配布しておりますので、結果を比べてみても良いと思います。継続して課題がある場合は、改善に向けた具体的な取組を進めましょう。



A：十分できている B：おおむねできている C：改善が必要である

項目	No	内 容	評 価 (○を付ける)
授業・学級経営	1	生徒指導の3つの機能（自己決定、共感的人間関係、自己存在感）を生かした授業や学級経営を実践している。	A・B・C
	2	教師と児童生徒、児童生徒同士の信頼関係を基に、互いのよさや違いを認め合う場を意図的に設定し、所属感や連帯感をもてるような学級集団づくりを進めている。	A・B・C
	3	輪番制の計画委員会を中心とした学級活動を実践するなど、児童生徒の自発的、自治的な活動を取り入れた特別活動を展開している。	A・B・C
	4	学級の実態を踏まえ、児童生徒の望ましい人間関係づくり（構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなど）を進めている。	A・B・C
	5	悩みを抱えた時、児童生徒自身がどのように行動すれば良いのか考える場面や助けを求める大切さについて考える場面を設定している。	A・B・C
	6	学習ルールや集団生活のマナーの大切さについて、児童生徒とともに考える場や機会を設けている。	A・B・C
組織的な支援体制	7	学校で目指す児童生徒の具体的な姿や生徒指導の重点、生活のきまりなどについて全職員で共通理解している。	A・B・C
	8	「学校評価アンケート」や「生活アンケート」、「日常的な観察」で把握した児童生徒の実態を全職員で共通理解している。	A・B・C
	9	いじめ、不登校、問題行動等に対し、全職員の共通理解のもと、役割を分担し、組織的・継続的な指導をしている。	A・B・C
	10	児童生徒の実態に応じて、保護者やSC、SSW、関係機関（適応指導教室、児童相談所、民生委員等）と連携を取り合って支援している。	A・B・C
	11	生徒指導関係の研修の復命や、国や県・市町村の生徒指導に関する通知・配付資料等を生かして実践に努めている。	A・B・C
いじめ	12	学校いじめ防止基本方針の内容を理解し、その方針に沿って生徒指導を行っている。	A・B・C
	13	いじめについて学級で考える機会を設定するなど、いじめは絶対に許さないという学年・学級の気運の醸成に努めている。	A・B・C
	14	法律上のいじめの定義を確認し、いじめの芽や兆候についても認知し、適切な対応を行っている。	A・B・C
不登校	15	欠席日数累計が、30日以上の子供生徒を把握し、必要な働きかけや体制づくりを行っている。	A・B・C
	16	児童生徒の些細な変化にも目を向け、休み始めに電話連絡や家庭訪問を行ったり校内に相談しやすい居場所を設けたりするなど、登校しやすい環境づくりに努めている。	A・B・C
	17	小学校と中学校が連携して、不登校が心配な児童生徒に対する情報を共有し、校内の支援体制を整えている。	A・B・C
問題行動	18	インターネット端末の正しい使い方について、家庭と連携を図りながら計画的な指導を行っている。	A・B・C
	19	万引・喫煙・暴力行為・器物損壊等を未然に防ぐための指導を計画的に行っている。	A・B・C
	20	児童生徒が、身の回りに潜む危険を具体的に予測する活動等を設定し、危機回避能力を高める指導を計画的に行っている。	A・B・C